

奈良県感染症情報

平成 26 年 第 36 週(9 月 1 日～ 9 月 7 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 気になる話題～RSウイルス感染症～

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	1.82	(1.71)	➔	➔	↗	↓
2	咽頭結膜熱	0.85	(0.74)	↗	↗	➔	↗↗
3	A群溶連菌咽頭炎	0.65	(0.56)	➔	➔	➔	↑
4	水痘	0.47	(0.21)	➔	↘	↗↗	↓
5	突発性発しん	0.38	(0.65)	➔	↘	↑	↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↗↗**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**➔**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

咽頭結膜熱の報告が増えています。今週は、内吉野保健所管内で急増したこともあり、県全体で増加しました。昨年末にも流行し、今年に入り落ち着いていましたが3月頃から多くなり、7月以降は、昨年に比べると倍以上の報告数となっています。1～5歳の報告が多いです。

東京都代々木公園周辺で発生しているデング熱が、9日には千葉市で、東京を訪れていない方が感染している事が報告されました。千葉市内での感染が疑われており、ウイルスを保有している蚊が千葉市にもいたとも考えられます。

デング熱は38℃を超える突然の高熱で発症します。発熱中及び前後は血中にウイルス量が多くなり、その時期に蚊に刺されると、蚊にウイルスが伝搬します。その蚊が他の人を刺すことで、感染が拡がります。日本にいる媒介蚊はヒトスジシマカとされていて、成虫の寿命は30～40日、その間4～5回吸血するようです。またこのウイルスは、ヒト及び蚊の体内で増殖し、霊長類(ヒト・サル等)以外の動物では増殖しないとされています。まず、感染しないためには、蚊に刺されないようにすることが大切です。また、感染を拡げないためにも、蚊に刺されないことが重要です。なお、県内ではこれまで、国内で感染したと思われる患者報告はありません。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(矢追医院)

北和地区外来情報:外来患者数は、夏休み前後で少ない。特に感染症はあまり目立ったものはなく、一部の保育園で咽頭結膜熱の流行がみられるが、ヘルパンギーナは減少した。7月に提出したヘルパンギーナの検体からはコクサッキーA2型が多かった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はそう多くない。
 夏風邪が減少し軽度の感冒が主。今夏はヘルパンギーナは少なかった。
 感染性胃腸炎が少し。嘔吐より下痢が主の例が多い。
 他の登録の感染症は少ない。

南部地区(県立五條病院小児科)

咽頭結膜熱が増加。家族内感染し、大人も高熱がでた。ヘルパンギーナはほとんどみられなくなった。咳・熱の遷延する呼吸器感染症も増加し、数名は肺炎を併発するも炎症反応はあまり亢進していなかった。



☆RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルスの感染による呼吸器の感染症です。症状としては、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々ですが、乳児期、特に生後数週間～数ヶ月の子どもは重症になることがあるため、感染しないように注意してあげてください。

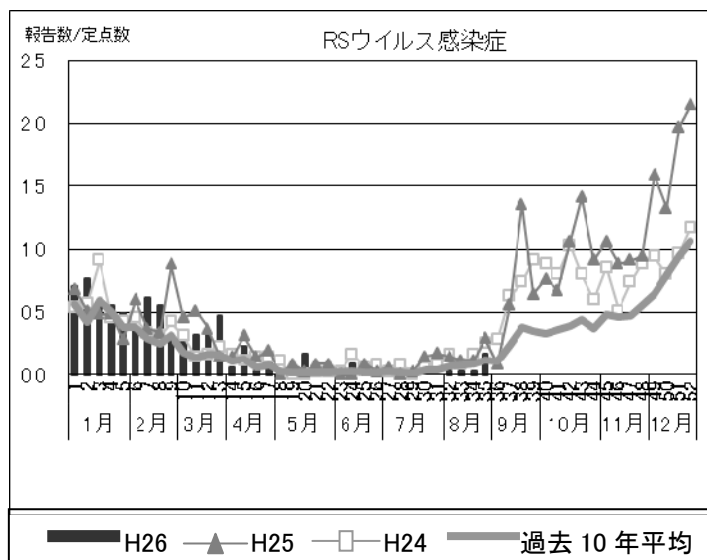
RSウイルス感染症とは

RSウイルス感染症は、発熱、鼻水から始まり、更に咳、ゼーゼーという喉（のど）の音、肺炎と進行します。年長児や大人では軽い風邪症状程度ですむため感染している事がわからないこともあります。

RSウイルスに対する免疫は長く続かないため、年齢に関係なく、生涯にわたって何度も感染します。また、生後1歳までに半数以上が、2歳までに100%が感染するとされています。

奈良県でも、近年9月から患者報告が急増してきます。これから冬に向けて注意が必要です。（右グラフ）

奈良県内のRSウイルス感染症報告状況



RSウイルスはどこから？

咳やくしゃみで飛び散るしぶきを吸い込む**飛まつ感染**や、感染している人との直接の**濃厚接触**や、ウイルスがついている手指や物品（ドアノブ、手すり、おもちゃ、コップ等）を触ったり又はなめたりすることによる間接的な**接触感染**で感染します。

予防のために

RSウイルス感染症の患者の多くは0歳児と1歳児です。またRSウイルス感染症であると気付かない年長児や大人が存在しています。咳をしている年長児や大人は、可能な限り0歳児と1歳児との接触を避けることが大切です。また、咳などの呼吸器症状がある場合は**飛まつ感染対策**としてマスクを着用し咳エチケットを守る事、**接触感染対策**としては、流水・石鹸やアルコール製剤による手洗い・消毒や子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどをこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒する事をお勧めします。

大人自身も健康に気を配り、家庭に感染症を持ち込まないことが、子どもを感染症から守ることに繋がります



(感染症情報センター)

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 26 年 第 36 週 9 月 1 日 ~ 7 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	55	11	16	11	11	3	3	
インフルエンザ								
小児科定点数	35	7	10	7	7	2	2	
RSウイルス感染症	12 (0.35)	8 (1.14)	1 (0.10)	1 (0.14)			2 (1.00)	
咽頭結膜熱	29 (0.85)	6 (0.86)	5 (0.50)	1 (0.14)	13 (1.86)	4 (4.00)		
A群溶連菌咽頭炎	22 (0.65)	5 (0.71)	10 (1.00)	2 (0.29)	2 (0.29)	1 (1.00)	2 (1.00)	
感染性胃腸炎	62 (1.82)	8 (1.14)	16 (1.60)	23 (3.29)	14 (2.00)	1 (1.00)		
水痘	16 (0.47)	6 (0.86)	4 (0.40)		6 (0.86)			
手足口病	4 (0.12)		2 (0.20)	1 (0.14)	1 (0.14)			
伝染性紅斑								
突発性発しん	13 (0.38)	2 (0.29)	2 (0.20)	7 (1.00)	1 (0.14)		1 (0.50)	
百日咳								
ヘルパンギーナ	13 (0.38)		7 (0.70)	2 (0.29)	3 (0.43)		1 (0.50)	
流行性耳下腺炎	4 (0.12)	1 (0.14)	2 (0.20)		1 (0.14)			
眼科定点数	9	1	3	2	2	0	1	
急性出血性結膜炎							-	
流行性角結膜炎	4 (0.44)	1 (1.00)	2 (0.67)		1 (0.50)		-	
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	0	
細菌性髄膜炎							-	
無菌性髄膜炎							-	
マイコプラズマ肺炎	1 (0.17)						1 (1.00)	-
クラミジア肺炎								-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)								-

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核6件(奈良市1、郡山3、葛城2)
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症1件(奈良市1)
4類感染症	レジオネラ1件(桜井1)
5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症1件(桜井1)

❖ 第 36 週のトピックス ❖

輸入食品に対する検査命令の実施 ~フランス産非加熱食肉製品からリステリア菌を検出~(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000057452.html>

※リステリア菌は、食中毒を起こす細菌です。特に妊婦が感染すると、胎児に大きな影響があるため注意が必要です。

デング熱について(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue-fever.html>

上段 : 報告数
(下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計	
インフルエンザ	男																						5966	
	女																						5983	
RSウイルス感染症	男		1	3	2	1	1																8	146
	女			1	2	1																		4
咽頭結膜熱	男		1	4	3	3	1	2	2				1	2		1							20	426
	女		1	2	1	2	2	1															9	340
A群溶連菌咽頭炎	男				1	1	5	2	1				1	1									11	665
	女		1		1	1	1	4	2						1								11	593
感染性胃腸炎	男			9	6	3	5	1	2	2	1	2	4	1	2								38	2958
	女		4	7	1	1	1	3						2	5								24	2731
水痘	男		1	2	1		1	2						1	2								10	520
	女		1	2	1			1		1													6	452
手足口病	男						1	1															3	83
	女		1										1										1	61
伝染性紅斑	男																							35
	女																							39
突発性発しん	男		2	2																			4	214
	女		3	6																			9	179
百日咳	男																							1
	女																							
ヘルパンギーナ	男			1	5	1	1	1															9	654
	女		1	2	1																		4	584
流行性耳下腺炎	男											1											2	77
	女						1	1					1										2	68
急性出血性結膜炎	男																							
	女																							
流行性角結膜炎	男			1												1							2	59
	女																1						2	80
細菌性髄膜炎	男																							4
	女																							1
無菌性髄膜炎	男																							5
	女																							1
マイコプラズマ肺炎	男			1																			1	4
	女																							3
クラミジア肺炎	男																							
	女																							
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男																							18
	女																							18

❖ 注目疾患の動向 ❖ 全て定点当たり報告数

■ H26 ▲ H25 □ H24 〰 過去10年平均

